

平成 29 年度 公共事業の新規評価結果について

公共事業の一層の効率化、重点化を図るとともに、その実施過程の透明性を高めるため、長野県公共事業評価監視委員会による第三者評価を実施しました。

審議の結果については、次のとおりです。

1 評価対象事業箇所

評価対象は、県が事業主体となって、平成 30 年度に新たに着手しようとする公共事業のうち、総事業費が 10 億円以上の 9 箇所としました。

2 新規評価の審議結果

県が新規評価を実施した 9 箇所の中から 4 箇所を抽出し、詳細審議を行った結果、必要性、重要性、緊急性などをまとめた 県の自己評価は妥当 とのご意見をいただきました。

平成 29 年度 公共事業新規評価実施箇所一覧

単位：千円

事業種類	事業名	市町村名	路河川名等	事業概要	工期	全体事業費	担当課	県の自己評価	評価監視委員会意見
農村地域の防災・減災	県営農村地域防災減災	佐久市	こうさか 香坂ダム	放流設備補修 一式 (放流塔N=1箇所、ゲートN=4門) 管理施設補修 一式 (管理棟N=1棟、管理機器一式) 余水吐補修 N=1箇所	H30～H35	1,217,000	農地整備課	A	妥当
河川の整備等	河川	佐久穂町	(一)北沢川 たかの まちあいおい 高野町相生	河道拡幅工 L=960m	H30～H38	1,027,000	河川課	B	妥当
	河川	長野市	(一)浅川 あさかわ とよの さんねんざわ 豊野(三念沢) かみこまざわ こまざわがわ 上駒沢(駒沢川) ふるさと しんでんがわ 古里(新田川)	河道拡幅工 三念沢 L= 680m 駒沢川 L=1,600m 新田川 L=1,080m	H30～H48	2,500,000	河川課	A	妥当
	河川	長野市	(一)岡田川 おかだがわ しの い 篠ノ井	河道拡幅工 L=2,450m 排水機場 N=1箇所	H30～H48	4,000,000	河川課	A	妥当
主要な道路の整備	道路改築	長野市	(国)403号 いわの 岩野	道路築造 L=700m W=6.5(13.0～16.0)m	H30～H37	1,150,000	道路建設課	A	妥当
	道路改築	飯田市	(主)飯田富山佐久間線 いいたとみやとろくません ちく くだいら みなぼら 知久平～南原	道路築造 L=900m W=6.0(9.75)m	H30～H37	1,600,000	道路建設課	A	妥当
補完的な道路の整備	街路	伊那市	(都)環状北線 かんじょうきたせん やまでら ちゅうおう 山寺～中央	道路築造 L=610m W=7.0(16.0)m	H30～H38	3,400,000	都市・まちづくり課	A	妥当
農業基盤整備	経営体育成基盤整備	池田町	あいそめせいぶ 会染西部	ほ場整備工 A=61ha 客土 A=55ha 用水路工 L=9,200m 排水路工 L=6,500m 農道工 L=12,300m	H30～H35	1,570,000	農地整備課	A	妥当
	中山間総合整備	朝日村	あさひ	ほ場整備工 A=38ha 用排水路工 L=400m 農道工 L=300m 活性化施設 N=1箇所 集落道 L=300m	H30～H34	1,200,000	農地整備課	A	妥当

(注) 網掛：詳細審議箇所

事業の必要性、重要性、効率性、緊急性、計画熟度を点数化し、その合計により評価
[100点満点 A:75点以上 B:75点～50点 C:49点以下]

3 県案が妥当とされた判断理由・審議上の意見

(1) 河川事業 (一) 岡田川 篠ノ井 (長野市)

- 当該河川の保全対象には多くの家屋、公共施設があるが、過去に複数回の浸水被害を受けていることから、周辺の土地区画整理事業と連携した河川整備を進める必要があると認められる。
- 千曲川増水時における岡田川樋門閉鎖に伴う内水被害を解消するためにも、排水機場の建設は喫緊の課題であると認められる。
- ◇ 実施事業計画段階において、砂防を含む上流事業との連携、維持管理がしやすい構造の検討、住民と協働した施設の維持管理など、総合的な維持管理計画を含めて検討されたい。



平成 18 年 7 月洪水

(2) 街路事業 (都) 環状北線 山寺～中央 (伊那市)

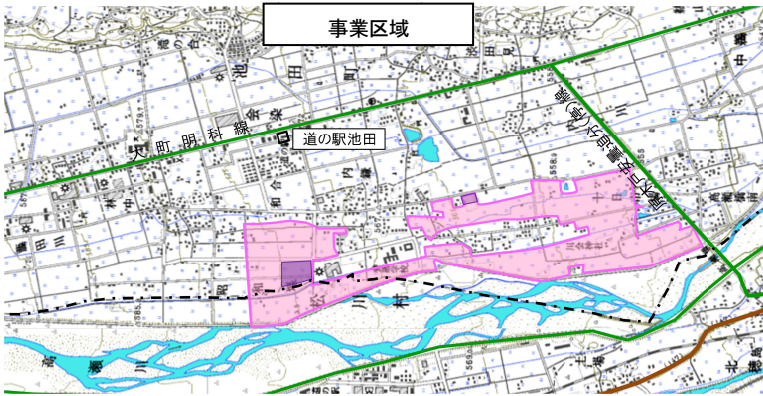
- 当該路線は、伊那市の都市構造を支援する内環状線の一部であり、当該区間を整備することにより、内環状線が完了し、その効果が発現することから、整備が必要である。
- 環状線を構成するとともに、将来的には伊那 I C から伊那バイパスまでを接続する主要なアクセス道路となることから、整備が必要である。
- ◇ 竜東線との交差において、渋滞が発生しないような構造を検討すること。
- ◇ 盛土量が多い箇所であり、土質の変更に伴う事業費の増とならないよう、地盤沈下対策、圧密対策など、計画段階で十分検討を行うこと。

主要道路整備計画 説明図



(3) 経営体育成基盤整備事業 会染西部（池田町）

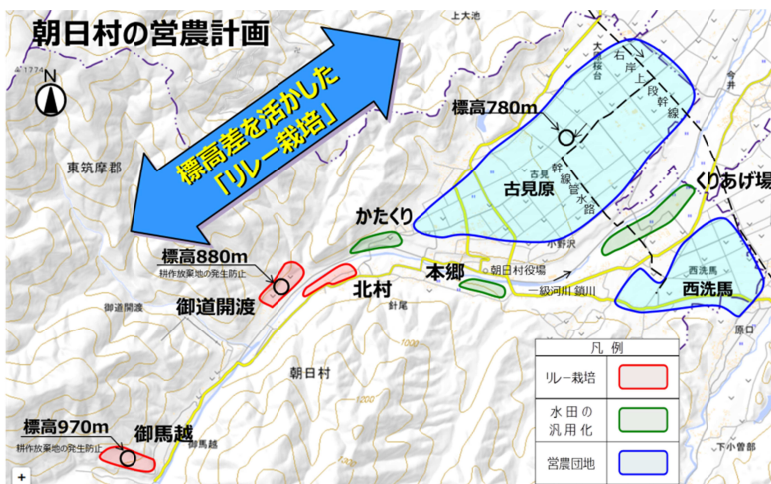
- 区画が狭小であり形状が異なる区画が混在していることや、道水路の整備が十分に行われていないことから営農に支障をきたしている農地を整備し、大区画化、汎用化して、地域で活動する営農組織や認定農業者への集積・集約化を進めることにより、地域農業の活性化に寄与するものである。
- 区画整理に併せ、計画地の一部を水稻からワイン用ぶどう等の高収益作物に転換させることにより、競争力の高い農業の実現が見込まれる。
- ◇ 事業実施にあたっては、将来の再区画整理にも配慮した設計を検討されたい。



整備後のイメージ

(4) 県営中山間総合整備事業 あさひ（朝日村）

- 山間部の農地を整備し、特産であるレタス等の標高差栽培を実現することで、長期出荷による生産性の向上が見込まれ、地域農業の活性化が図れる。
- 後継者不足により耕作放棄地が増加している未整備の水田について、区画整理を行うことで、担い手農家への集積等が見込まれる。
- ◇ 現在の農村景観は観光財産にもなりえるため、他事業との連携を含め、これを活用した活性化の取組を検討されたい。
- ◇ 新規就農者も、就農給付金の準備型、経営開始型により増えてくると考えられるので、基盤整備を積極的に進めていただきたい。



朝日村の農村景観（整備済のレタス畑）